

進路指導部通信

県立高等特別支援学校
進路指導部
2015.12.4 NO.16

進路指導部の行事である、進路セミナーと秋の現場実習が終了しました。保護者の皆さまには進路セミナーへの出席及び企業への挨拶訪問、反省会等ありがとうございました。

今回の実習は1年生にとっても2年生にとっても「初めて」の実習でした。1年生にとっての「初めて」はもちろん実習そのものが初めて。引率教員と一緒に頑張る仲間がいたので、初めてではありましたが、心強かったと思います。2年生にとっての「初めて」は引率のない1名もしくは2名での実習。初日は緊張し心細かったと思います。現場実習は働く力を試すための実習です。将来、働くためには社会人としてのマナーやルールを身につけなくてはなりません。引率教員がつくのは正しい判断を促したり、困った場面にどの様に対応するかを見守るためでもあります。その支援を実習毎に減らしていき、結合実習ではたった一人で実習に挑みます。現場実習や学校生活の中で身に付けてきた力を発揮し、雇用に向けた実習となるのが結合実習です。これまでの経験が土台となります。日々の学校生活を充実したものにしてください。

進路セミナーの様子



今年の進路セミナーはUCCの特例子会社である株式会社日本パーソナルセンター、北播磨障害者就業・生活支援センターからお越し頂き、雇用側からの視点やサポートされる側からの視点で分かりやすくお話をして頂きました。また8名の卒業生が仕事や生活で困ったこと、努力してきたことなどを語ってくれました。午後からは保護者と生徒に分かれ、活発な質問が飛び交いました。とても有意義な時間となりました。

ある保護者の方から『家であまり話さないが、子どもが困っていたり、悩んでいたりをどうやって察知してやればよいか』という質問が出ました。日本パーソナルセンターの大本常務からのアドバイスは難しいことではなく、普段の生活で実践できることばかりでした。「おはよう」「ってきます」「ただいま」「おやすみ」といった挨拶は普段と少しでも雰囲気が違えば心の動きや体調はくみ取れるのではないかとということと、学校でも連絡帳で活用している心理状態を示すグラフ（学校では5つの顔の表情で示しています）でも察知できるのではないかとおっしゃられました。本人達にとっては小さなつぶやきなのかもしれませんが、元気のない挨拶や普段と違うところに〇印があるというのはやはり小さな主張だと思います。たかが顔のマークでも「おはよう」でもなく、心の変化をくみ取れるツールなのでしょうね。来年度はどなたが来校くださるかは分かりませんが、今回の様に活発な質問、意見交換の場となればと思っております。ご参加頂きました保護者の皆さまありがとうございました。

知っておこう④ ～訓練校等～

- 国立県営兵庫障害者職業能力開発校（伊丹の訓練校）総合実務科：就労経験のない人、または浅い人が職業人としてのビジネスマナーの習得と、各種の作業・実習を通じて職業適性を引き出し、多様な分野での就労と職業的に自立できることを目指します。
- 兵庫県立障害者高等技術専門学院（玉津の訓練校）総合実務科：職業的に自立するために、ビジネスマナーの習得や、各種の作業・実習などにより、職業適性を引き出し、多様な分野での就労を目指します。
- 阪神友愛食品（株）能力開発校：阪神友愛食品株式会社は、兵庫県、阪神7市1町、コープこうべが出資した訓練校です。1年間の訓練期間を設けています。阪神7市1町に在住する生徒が利用できます。

その他にも訓練校及び訓練ができる場である移行支援事業所がございます。毎年1学期には本校PTA主催の施設見学会や各訓練校でオープンキャンパスが実施されます。